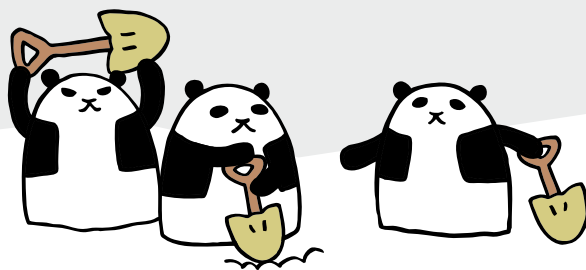


読者投稿コーナーだよ。
ここ掘れかんかん!



シムジアを 打ちながら

北村 庄子
当事者

今年のハロウィンは
ナースに挑戦!



昨年末、北野病院眼科で、白内障の手術を両目するのに13日間入院した。

北野病院はアヤを出産した病院で、左網膜静脈閉塞症の眼球注射も、2年前にした病院だ。

なんかあった時、精神科があるのも安心だ。手術中は30分くらい眼を開けていなくてはならなくて、水晶体に眼内レンズを入れる。水がずっと流れるように、眩しい銀色の光で蜘蛛の糸のようなものが見えたのが、針だったのでは？

翌日眼帯のガーゼを外すと、イケメン眼科医がハッキリ見えた！

白内障の手術で、0.01の視力が0.3まで見えるようになったのだ！

コンタクトレンズも老眼鏡も要らなくなった。

術後、眼帯を外した時、周りの景色が、くっきりではないが見えて、裸眼でも生活できるようになった。嬉しかった。

こうして眼のほうは良くなったのだが……。

ちょうど「ピコ太郎」さんがブレイクしてきた頃から、朝起きたら両足に激痛を感じ、歩くのがつらくなった。ロキソニンに頼れば治る。朝8時頃になると治まる。

その頃はこの病気の名前すらわからなかったが、

無事眼科を退院しても、足がおかしい。

夫サトルの勧めで、地元から電車に乗って、町医者の整形外科クリニックを受診した。

初めは、ご高齢のお医者さんで大丈夫か？と思ったが、「変形性膝関節症」と診断された。

「お水も溜まっていますね、関節液も抜いてみますか」

ほとんど痛みなく、関節液を抜いてくれた。その時の関節液は、透明で尿のようだったのを、町医者は見せてくれた。

さらに、初めて採血結果で「リウマチ」と診断された。いろいろググったりしたけれども、統合失調症と白内障以外には病気になったことがなかったので、未知の病気には困惑してしまった。

町医者では治療とリハビリ、膝に電気を当てて温シップをするくらいだが、この10分が地獄だった。痛いのだ。それを町医者に言うと、「君は一体どこが痛いのだね？」。「全身」。そう答えると町医者は怒るのだ。

5月の初め、会社の先輩に足を見せると、左ふくらはぎが右に比べて腫れていておかしいと言う。早退して町医者に行った。すると、大きい大学病院の血管外科に紹介状を書くから診察してもらって、とのこと。下肢動脈瘤かもと。

6月2日、私と夫サトルの結婚記念日に超音波検査をもらった。右静脈には血栓はなく、左膝裏に何かある。

エコー室に、いきなり医師が4人ほどが集まり、「血栓ではない脂肪の塊です」と言い、去っていった。その後の診察室で、大きい大学病院の医師はさ

〈編集室より〉あなたの「声」をお待ちしています。掲載記事に対する感想／著者への手紙／雑誌への意見・提案・取り上げてほしいテーマ・情報提供／「こんな経験をした」「読者の皆さんはどう思う？」など、なんでもOK。掲載分には医学書院特製図書カードを進呈します。実名掲載が基本ですが、匿名の場合はその旨を明記ください。

【投稿方法】

封書、ハガキの場合：〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 医学書院『精神看護』宛
FAXの場合：03-5804-0485 E-mailの場合：seikan@igaku-shoin.co.jp

らりと言った。「なんともないので、クリニックで治療するように手紙を書いときます」。

この時点で、北野病院のリウマチ膠原病内科の扉を叩いていたら……。

大きい大学病院から帰る時、その看板に精神科病棟と書かれているのを見つけた。ここには入院したくないな、と思いながら帰った。

ほくとクリニックの精神科の診察日。大きい大学病院で検査を受けて、何もなかったことやらを主治医に言った。町医者は信用できないと言うと、「もう、北野病院のリウマチ科を初診で受けた方がいいね」。

ああ、これだ！ 私が精神科医に言ってもらいたかったことは。

翌日、夫サトルの車で、北野病院に連れていってもらった。北野病院の駐車場は障害者手帳があれば無料である。

夫サトルは、「医者の前でいらんこと言うな」とのこと。2階の喫茶室で、コーヒーとサンドイッチを2人で食べた。

アヤを産んだ時の話やら、やっぱり精神科のある北野病院は良い、とかたわいもなく話した。

リウマチ膠原病内科を受診するために待つ。精神科より早かった。

女医さんだった。リウマチ膠原病内科の医師は。精神安定剤の名前を、さっさとパソコンに入力していった。

膝、手首、肘を押さえて、「関節リウマチですね」と言う。左膝裏の異物感も訴えた。

「来週初め、超音波検査をしましょう。今日は採

血、検尿をして、レントゲンを撮って帰ってください」

レントゲンはいろいろなポーズで、関節を10枚くらい撮り、採血も10本くらいされた。

診察費、諭吉様超え！ でも痛みがなくなるなら。

夫サトルが、「リウマチで痛いのですか？」とN女医に聞いたら、「痛いですよ～」と。本当にそうやもん。

翌週月曜日、N女医直々に超音波検査をしてくれた。右手から始まり、左手首は赤くなって、右肘も赤い。両ひざも赤い。赤いのは炎症を起こしているということらしい。

左足の膝裏も診てくれた。「何かありますね」。

しばらくしてから診察室に来て、とN女医は言った。

「お待たせしました。リウマチ検査の結果です。関節リウマチですね。お薬処方しますね」

「左膝裏は？」

「ベイカー嚢腫です。おそらく」

初めて聞く病名だ。女性のリウマチ患者に多く、膝裏に袋ができて、リウマチが治れば吸収されると。

大きい大学病院の医師でも解らなかった病名を、見つけてくれたのだ。

薬は1週間、1日3錠飲む。リウマトレックス、胃薬、ステロイドのプレドニン。副作用止めは毎水曜にと処方してもらった。

北野病院の帰りに処方箋薬局でもらった、抗がん剤にもなるリウマトレックスと、プレドニンを飲んでみた。

プレドニンは躁状態になる副作用があり、朝は痛

いけれど、だんだんハイになっていくので一気にこの文章を書けた。

あとは、生物学的製剤注射をするかどうか。1 か月 4 万円の費用がかかる。N 女医は、「働いてる人は、この治療をされてますよ」と、言ったが、「家族会議してきます」と、首を縦に振らなかった私。

翌日、仕事場の靴倉庫（働いて 7 年目）に夫サトルと行ってきた。

「きたしょう（あだ名）、抜けられたら痛手や」と言われ、生物学的製剤治療をしながら働く私を脳裏に描いてみた。

今は痛くてイメージできないけれど、「為せば成る」と思える強いパワーがほしい。

お月さまに、お願いしてみようか。

そしてお盆休みの日、夫サトルと娘アヤ（我が家の権力者 20 歳）と 3 人で北野病院を受診した。生

物学的製剤「シムジア」を注射することになった。

ナースの指導の下、私のメタボの腹の皮下脂肪を見て、「注射しやすそう」と言われた。ん？ だが待てよ。話がだんだん見えてきた。「シムジア」は、私が自分自身で腹に皮下注射をせなアカンのや！

覚悟を決めた私は、夫サトルとアヤの見守るなか、腹にエイッ。注射できた！

その日から、脚の膝関節の痛みが消えた。

計 6 本。今日まで「シムジア」を打ち続け、寛解の時間が増えた。まだ屈伸はできないが、仕事も再開。

社会保険と「シムジア」のために働いているようなものだ。でも仕事を辞めて飲み薬だけじゃ、治らんとしたんだもの。

原因はストレスと、過去の喫煙歴だそうだ。今年で禁煙して 10 周年だ。

新たな病気の友だち、手強いな。

精